

# 生体病態学Ⅲ

## 授業概要

全身に及ぶような疾患、症候、外傷などについて、それぞれの病態生理や原因を個体レベルから分子レベルにいたる各層まで広く学ぶ。さらに、それらの診断法、治療法、対処法、予防法などを最新の研究結果や知見から学習する。

## 担当教員

紫藤 治 (主担当)	教授・環境生理学
内尾祐司	教授・整形外科
佐倉伸一	准教授・手術部

## 一般目標 **general instructional objectives**

全身性の疾病や症候などの治療法、対処法、予防法を習得あるいは確立するために、それらの発症メカニズムと病態生理を学習する。

## 行動目標 **specific behavioral objectives**

1. 発熱と anapyrexia の概念および病態生理を述べることができる。
2. 体温異常による組織障害の分類と病態生理を述べることができる。
3. 熱中症の発症機序と病態生理学的な予防法を説明できる。
4. 麻酔薬の毒性と中毒時の病態生理および治療法を述べることができる。
5. 外的要因による運動器系疾患の病態生理を概説できる。

## 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

## 使用テキスト・参考文献

適宜、資料を配布する。

教育内容（講義および演習）（予定）

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	紫藤 治
2	発熱の発現メカニズムと病態生理	〃
3	Anapyrexia の発現メカニズムと病態生理	〃
4	高体温と組織障害	〃
5	低体温と組織障害	〃
6	熱中症の発症メカニズムと病態生理	〃
7	幼児、高齢者を対象とした熱中症の発症の予防	〃
8	局所、全身麻酔薬の作用機序と応用	佐倉伸一
9	麻酔薬の神経毒性と中毒時の病態生理 1	〃
10	麻酔薬の神経毒性と中毒時の病態生理 2	〃
11	骨形成と損傷治癒の機序	内尾祐司
12	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 1（軟骨）	〃
13	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 2（靭帯）	〃
14	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 3（末梢神経）	〃
15	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 4（半月板）	〃